

千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第29週 (7/13-7/19) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	29週	28週	27週	26週
小児科	17	18	18	17
眼科	4	5	5	5
インフルエンザ*	27	28	28	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 7/6-7/12 28週
		注意報	7/13-7/19	7/6-7/12	6/29-7/5	6/22-6/28	
			29週	28週	27週	26週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	1	0	3
	咽頭結膜熱	→	2	14	14	11	115
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		55	55	56	77	467
	感染性胃腸炎		81	105	107	92	677
	水痘		3	5	7	5	41
	手足口病	◎★★★	217	137	89	55	530
	伝染性紅斑	○	26	29	25	27	181
	突発性発しん		26	15	10	12	86
	百日咳	○	0	3	1	6	6
	ヘルパンギーナ	○	42	39	5	6	394
	流行性耳下腺炎		6	14	10	8	112
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	0	0	0	10
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		3	3	3	1	25
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	40歳代	病原体の検出	アメーバ赤痢	男性	40歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	80歳代	病原体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査等	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査				

*結核5件(125)、腸管出血性大腸菌感染症1件(6)、アメーバ赤痢1件(3)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(2)、梅毒1件(8)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第29週のコメント

<手足口病> 前週より更に増加し12.76となった。流行発生警報開始基準値を上回っている。過去10年の同時期と比べると最多。

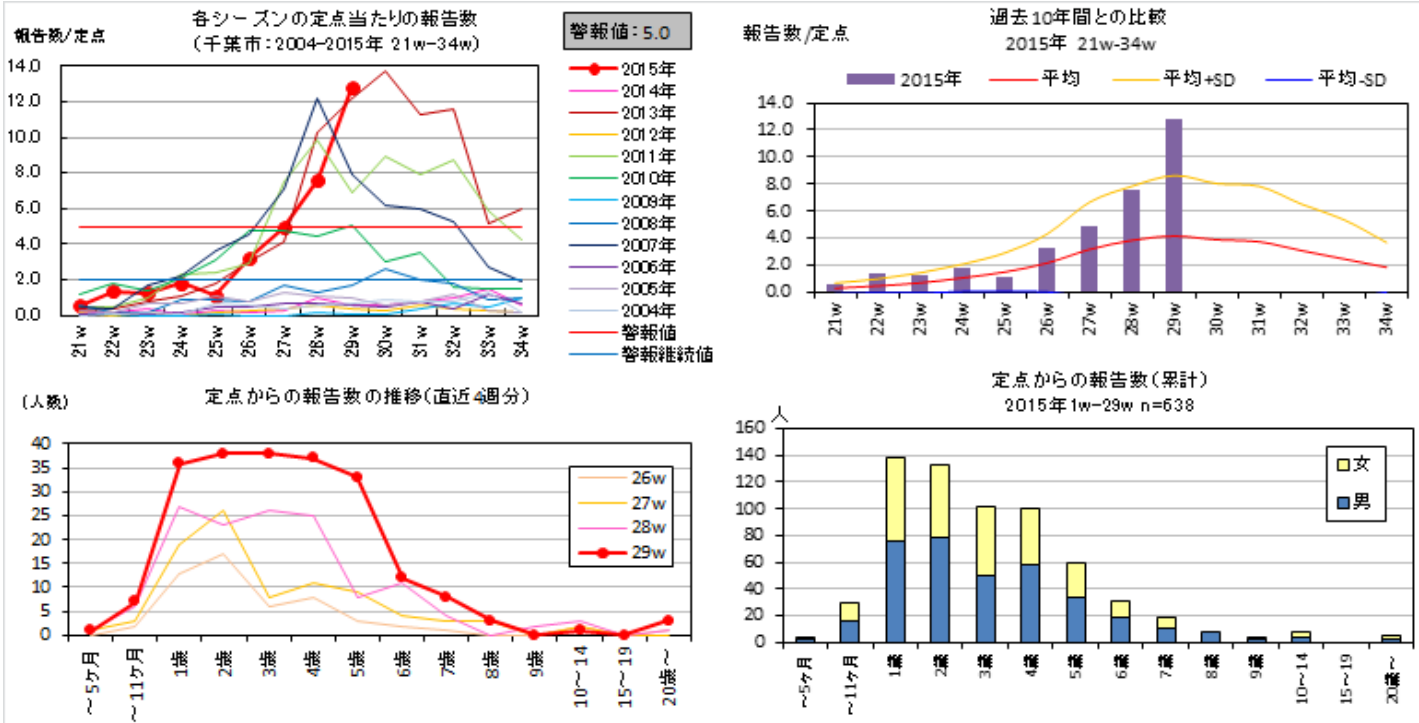
<伝染性紅斑> 前週より減少し1.53となったが、過去10年の同時期と比べると最多。

<突発性発しん> 前週より増加し1.53となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

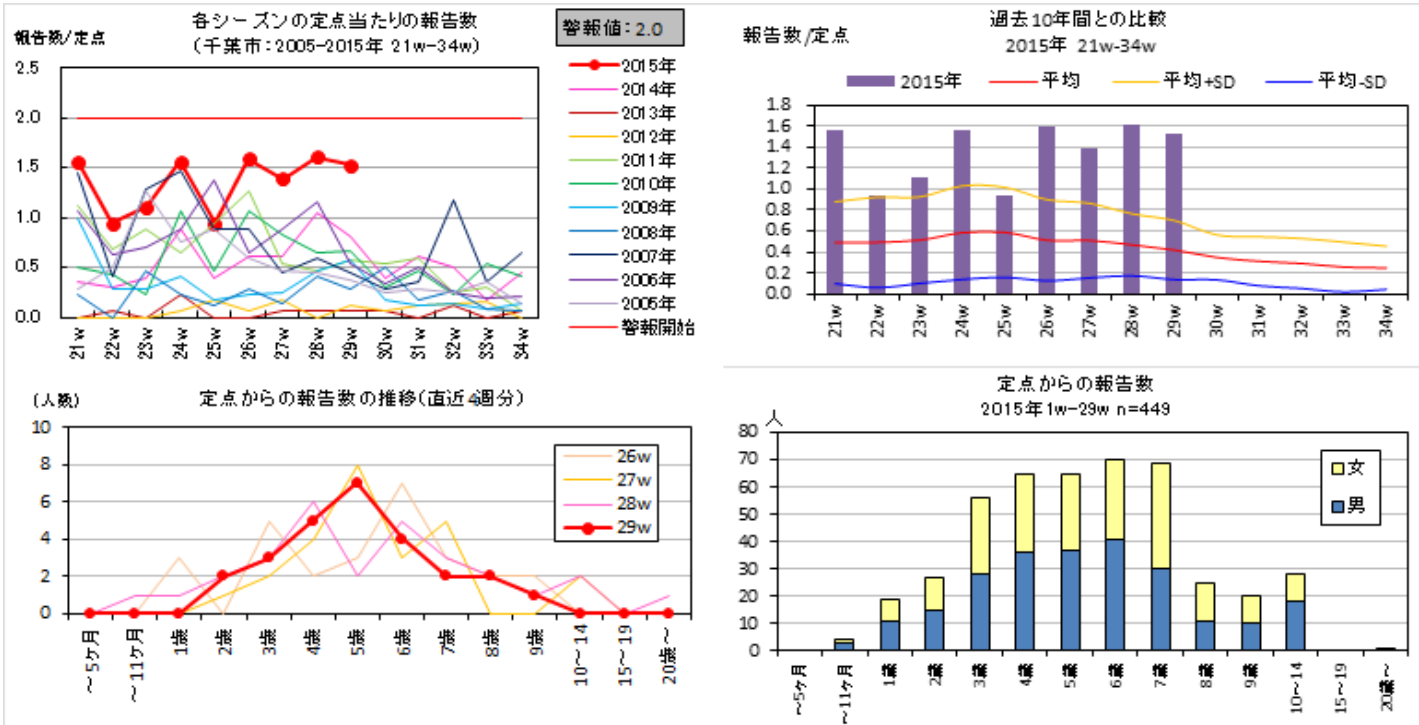
<手足口病>

全国レベルの第28週現在は、過去8年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、福井県、奈良県、京都府の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第29週は前週から更に増加し12.76となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままです。区別の発生状況は、中央区以外で全て流行発生警報開始基準値を上回っており、美浜区(20.0/定点)が最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。中央区では流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報継続基準値を上回っています。2015年第1週から第29週までの累積報告数(n=638)によると、性別では男性が56.0%(357名)、女性が44.0%(281名)で、年齢階級別では1歳(21.6%:138名)、2歳(20.8%:133名)、3歳(15.8%:101名)の順に多くなっています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第28週現在は、過去8年の同時期と比べ多めとなっています。都道府県別では、大分県、滋賀県、埼玉県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2015年第29週は前週から減少し1.53となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままです。区別の発生状況は、稲毛区(3.67/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多の他、花見川区(3.5/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回りました。稲毛区では4歳及び5歳、花見川区では5歳で最も多く発生報告がありました。また、緑区は流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報継続基準値(1.0/定点)を上回っています。2015年第1週から第29週までの累積報告数(n=449)によると、性別では男性が53.5%(240名)、女性が46.5%(209名)で、年齢階級別では6歳(15.6%:70名)、7歳(15.4%:69名)、4歳及び5歳(共に14.5%:65名)の順に多くなっています。



<突発性発しん>

全国レベルの第28週現在は、過去8年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、宮崎県、大分県、徳島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の2015年第29週は前週から増加し1.53となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、稲毛区(4.33/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第29週までの累積報告数(n=381)によると、性別では男性が50.4%(192名)、女性が49.6%(189名)で、年齢階級別では1歳(54.1%:206名)、6か月から11か月(27.3%:104名)、2歳(10.0%:38名)の順に多くなっています。

